



# カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 令和3年10月号

後期の始まりですね、芸能・芸術の秋です。

先週に引き続き今回も全校の皆さんにお話するつもりでこの文章を書きました。幼小部の皆さんは分かりづらいかもかもしれませんが、その時は保護者の方に教えてもらってください。

芸術の秋、パンデミックの影響を受けて休演していたサンフランシスコオペラが再開されました。皆さんはオペラやミュージカルに行ったことがありますか。オペラで有名なのはヨーロッパのウィーンやパリなどですが、サンフランシスコオペラもアメリカを代表するオペラの一つです。ミュージカルなら、なんといってもニューヨークのブロードウェイでしょう。

オペラやミュージカルは音楽や歌をふんだんに盛り込んだ舞台芸術です。両者ともに出演者の演技や踊り、歌、オーケストラの音楽、衣装、舞台装置、それらすべての魅力が満載された魅力的なステージです。オペラは総合芸術ともいわれていますが、ミュージカルをそう呼ぶことはないように思います。そこで疑問が出てきました。「芸能と芸術の違いは何だろう」と思ったのです。

来週は本校で落語教室が開かれます。落語は小学校の国語の教科書にも出ていて、日本を代表する伝統芸能の一つです。衣装や舞台装置などを極力使わないで、演じる人の技と聞き手の想像力で囃の世界を広げていく芸能だと思えます。アイドルの歌手の人たちや俳優さんたちを「芸能界の人たち」と言い、ミュージカルスターも芸能人なのかもしれません。オペラ歌手やオーケストラの演奏者は声楽家、音楽家、芸術家などと呼ばれることがあります。それでも、オペラをつくったモーツァルトやプッチーニも、彼らが生きていた時代には難しそうなクラシックではなく、現代のライブコンサートやミュージカルのように娯楽として楽しんでいたようです。

私は以前、芸能は広く多くの人々を楽しませてくれるもので、芸術とは人々にいろいろな感じ方や考え方を与えてくれるものだと思っていました。芸能は分かりやすく楽しいもので、芸術は深く感じ考えて味わうものなのかもしれませんが、両者とも鑑賞する人たちが出し物をどのように味わうかが大切なんだろうなと思えます。

皆さんは、新鮮でみずみずしい感性をもった若者です。演じる側になったとしても鑑賞する側としても、芸能や芸術を体全体で楽しむことができる感性を磨くことができたなら、より豊かな日々を送ることができると思います。

いつも見慣れた道路に落ち葉が敷き詰められていたとき、うっとうしいなあと感じる人もいれば、秋を感じる人、寂しさを感じる人もいるのではないのでしょうか。人それぞれ多様な受け止め方があっていいと思いますが、自分の感じ方を楽しむことができる人になって欲しいなと思えます。生活のちょっとした場面でも、この秋を楽しむことができることを願っています。